

「2021 インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部2年 岡澤 節

①学習成果

このプログラムに参加する前の私は「国際交流」というものを難しく考え過ぎてしまっていました。しかし実際に2週間、インドネシアの学生と様々な会話をして感じたのは、人と人が仲良くなるのにそこまで難しいことを考える必要はないということです。もちろん文化や生活習慣が違う以上、悪気なく相手を不快にさせてしまうことのないよう、普段以上に気をつけなければなりません、しかし、考え方の違いを尊重し相手を傷つけないよう気を配るといのは、日本人同士で話すときにも大切なことなのではないでしょうか。国や文化が違うということは、お互いを理解し合う上で決して乗り越えられない障壁ではないということを感じてきたように思います。

また、今回のプログラムでお話したのはインドネシア大学の日本語学科の方々でしたが、皆さんとても自然に日本語を話されており、日本の文化についても豊富な知識をお持ちだということに驚きました。私も自身の専門科目について、より真剣に取り組みたいと改めて感じるきっかけとなりました。

今回のプログラムは最初から最後までオンラインで行われたのですが、そんな中でも大変充実した時間となりました。プログラムを設計・運営してくださった先生方には本当に感謝の気持ちしかありません。ただ、やはりインドネシアの先生や学生たちと会話する中で「いつか直接会いたい」という気持ちも強くなっていきました。状況が落ち着くまではオンラインでの国際交流や自身の専攻の学習に精を出しつつ、学生のうちに直接海外の方と交流する機会を模索していきたいと思います。

②プログラム内容と経験

午前中はインドネシア語の日常会話、午後はインドネシアの伝統的なダンスや料理などを学びました。インドネシア語に触れるのは今回が初めてでしたが、アルファベットの読み方などの初歩から丁寧に教えて頂き、楽しく学ぶことができました。少人数のクラスだったこともあり、実践的な会話演習を重ねることができとても勉強になりました。また、インドネシア語は呼びかけ方ひとつにも相手との関係性、特に目上の方に対する礼儀を大切にすることが大切だということも学びました。

午後の授業で学んだインドネシアの文化の中で特に印象に残っているのは、ジョグジャカルタ州の料理 SONGGO BUWONO です。この料理は、ジャワの伝統的な料理とオランダなどからもたらされた洋食文化とのカルチュレーション（文化変容）の結果生まれたものだそうです。この料理を通じて、様々な文化が重なり合いながら大切にされているインドネシアの雰囲気を感じることができたのではないかと思います。帰省後実家の家族にも振る舞ったところ、皆非常に喜んでくれました。月並みな表現ではありますが、音楽などだけでなく「美味しい」という気持ちも国境を越えるのだと改めて気づくことができました。

③進路への影響について

進路については現時点で明確に決めている訳ではないのですが、このプログラムを通じて新たな知識を学ぶことの楽しさを再確認できたため、もう少し勉強をしたいという気持ちが強まっています。また、日常生活の中にもそれぞれの国の文化や考え方が反映されていることを感じたので、自分の研究を行う際にも「各国の文化との関わり、影響」という視座を忘れずに持っていきたいと考えています。